

地方独立行政法人大阪市博物館機構
第 1 期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する評価結果
(案)

第 1 期（令和元年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 3 1 日）

令和 5 年 8 月

大 阪 市

目 次

1	全体評価	P. 1
2	参考資料	P. 3
3	項目毎の評価	
1	住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	P. 4
1	さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	P. 4
2	幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	P. 9
3	人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」	P. 13
4	大阪中之島美術館の開館に向けて	P. 17
2	業務運営の改善及び効率化に関する事項	P. 19
3	財務内容の改善に関する事項	P. 22
4	その他業務運営に関する重要事項	P. 25

※中期目標の達成状況等の評価区分は以下のとおりとする。

- 5：全体として中期目標における所期の目標を上回る顕著な成果が得られていると認められる。
- 4：全体として中期目標における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。
- 3：全体として中期目標における所期の目標をおおむね達成していると認められる。
- 2：全体として中期目標における所期の目標を下回っており、改善を要する。
- 1：全体として中期目標における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める。

1. 全体評価・・・3：全体として中期目標における所期の目標をおおむね達成していると認められる。

★大項目毎の評価

●「住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」について

1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」・・・（大項目評価：4）

博物館機構発足以降、学芸員の固有職員化など必要な職員の人材確保が積極的に行われ、組織運営体制が確立されたことにより安定的に運営されるとともに、科学研究費補助金も継続的に確保されており、調査研究活動の推進も図られていることから目標を上回る成果があると評価できる。

また、施設・設備についても計画的な改修が実施されているなど、法人としての基礎固めが順調に進捗している。

博物館等の魅力の効果的な発信としては、博物館機構内外における各種連携事業の実施に加え、コロナ禍においてもオンラインを通じた博物館の魅力発信の取組みが行われているとともに、メディア等への働きかけに加え、ポスターやチラシのほかSNS等様々な媒体の特性を捉えた情報発信がなされている。

2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」・・・（大項目評価：3）

ソフトの充実として、マスメディアとの協働のもと、魅力的な特別展の誘致・開催ができた。

また、様々な事業者との連携・協働としては、近隣施設及び周辺エリアの事業者との連携による来館者拡大の取組みとともに、民間企業と共同したグッズの開発・販売のほか、民間企業への館蔵資料・データの提供による活動支援、資料の有効活用が図られるなど、おおむね目標通りであると評価ができる。

3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」・・・（大項目評価：3）

こども及び教員への支援として、各館において、こどもを対象としたワークショップの開催など、積極的に取り組んでいた。

また、大学との包括連携協定に基づく講義への協力をはじめ、コロナ禍にあってもオンライン等により多様な教育・普及活動ができています。

ボランティアやNPOなど市民活動に向けた参画機会の提供としては、コロナ禍の影響によりこれまで通りの取組み実施はできなかったものの、オンラインでの意見交換会など一定の活動は行われており、おおむね目標通りであると評価できる。

4 大阪中之島美術館の開館に向けて・・・（大項目評価：4）

当初予定通り開館を迎えることができたことに加え、開館イベントについても目標人数を大幅に上回る来館者を迎えられている。

更に、地域活性化への貢献が認められることにより様々な分野での賞を受賞するなど、目標を上回る成果が得られていると評価できる。

●「業務運営の改善及び効率化に関する事項」について

1 人材の活用と育成・・・（大項目評価：4）

博物館機構発足以降、学芸員の固有職員化など必要な職員の人材確保が積極的に行われるとともに、適時職員研修を実施するなど組織運営体制が確立され安定的に運営されていることから、目標を上回る成果が得られていると評価できる。

2 評価制度の活用・・・（大項目評価：3）

人事評価制度の導入とともに、職員個々人との面談を通じモチベーションの向上と業務改善意識の高揚が図られていることからおおむね目標通りと評価できる。

3 ICTの導入及び活用・民間活力の導入・・・・・・・・・・（大項目評価：3）

各種業務システムの導入により、臨機の経営状況の把握、ペーパーレス化が図られたことに加え、民間出身職員の知識を活かしECサイトの導入がなされたことなどにより利用者の利便性の向上も図られており、おおむね目標通りと評価できる。

●「財務内容の改善に関する事項」について

1 収入の確保・・・・・・・・・・（大項目評価：3）

令和元年度は非常に好調な来館者数であったことから展覧会収入としては当初予算とほぼ想定通りの収入を確保することができている。その後、コロナの影響により休館を余儀なくされ収入の低迷があったものの、中長期戦略の策定とともに、寄付金のオンライン収受システムの構築、EC化など収益確保の多角化にも取り組まれることなどにより収支差額を最小限に抑えられており、おおむね目標通りと評価できる。

2 経費の縮減・・・・・・・・・・（大項目評価：3）

コロナ対策経費が増大するとともに、光熱費の高騰などの中でも節減努力を最大限行うことなどにより、収支差額を最小限に抑えられており、おおむね目標通りであると評価できる。

●「その他業務運営に関する重要事項」について

1 内部統制の強化・・・・・・・・・・（大項目評価：3）

組織体制の整備に加え、職員への研修を通じて内部統制を確立していくための取組みが進められており、また、リスクに対応する担当窓口の設置とともに事案が発生した場合の対応策の策定、課題の整理など事前の対応が取られており、おおむね目標通りと評価できる。

2 利用者等の安全確保・・・・・・・・・・（大項目評価：3）

各館の施設・設備の改修とともに、新型コロナウイルス感染諸対策として各館における対策が適切に実施されるなどおおむね目標通りと評価できる。

3 環境保全の取組み・・・・・・・・・・（大項目評価：3）

各年度通じて省エネ、環境を意識した取組みが行われていることから、おおむね目標通りと評価できる。

4 情報公開の推進・・・・・・・・・・（大項目評価：3）

ホームページを通じた機構の運営状況の開示と共に、情報公開についても規定に基づき適切に対処できていることから、おおむね目標通りと評価できる。

（評価委員からの意見）

○市長の評価に当たっての意見、指摘等

・

2. 参考資料

○役職員数

(単位：人)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
役員	6	5	6	6	6
非常勤	5	4	5	5	5
職員	136	148	157	145	145
うち学芸員	76	77	76	76	76

※各年度4月1日現在

○博物館・美術館の休館状況

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
大阪市立美術館	2/29-5/25 コロナ		4/25-6/21 コロナ	9/26- 大規模改修	大規模改修 ～2025年春
大阪市立自然史博物館	2/29-6/1 コロナ		4/25-6/20 コロナ		
大阪市立東洋陶磁美術館	2/29-6/1 コロナ		4/25-6/21 コロナ 2/7-エントランス工事	エントランス工事	エントランス工事 ～2024年春
大阪市立科学館	2/29-5/20 コロナ		4/25-6/21 コロナ 8/23-2/2施設整備		11/6- 展示改装 ～2024年7月末
大阪歴史博物館	2/29-5/31 コロナ		4/25-6/20 コロナ		
大阪中之島美術館	—	—	2/2開館		

3. 項目毎の評価

大 項 目	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 さまざまな魅力の創造、発展及び戦略的発信を通じて「大阪の知を拓く」	法人は、大阪の都市格の向上に寄与するよう、博物館等における歴史、美術、自然、科学及び科学技術に関する実物、標本、現象に関する資料その他の資料（以下、「博物館等資料」という。）の蓄積と人々が学び、愉しみ、育んできた成果を更に発展させ、戦略的に発信する。																																											
中期目標	中期計画	実績・評価等																																											
1 活動の基盤をなす人材及び資料等の充実並びに施設及び設備の整備																																													
各館の活動成果の 掲揚及び発展並びに 大阪における文化資源の蓄積を図るため、人材及び博物館等資料の充実並びに各館の施設及び設備の整備に取り組む。	1. 博物館等資料の新たな収集 2. 防災及び防犯を含めた博物館等資料の適切な保管および将来への継承 3. 博物館等資料に関する情報及び資料の収集、整理及び提供 4. 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成 5. 博物館等資料並びにその補完及び公衆の観覧に関する調査研究 6. 博物館群の運営に関する調査研究及び評価等 7. 博物館等資料の保全及び効果的な活用のための計画的な修復 8. 博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修 9. 調査研究活動等の拡充を目指した外部資金の獲得 10. バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修	＜人材の充実＞ ・令和元年から令和3年にかけて、設置・運営する全ての館（6館）の館長を公募等により新たに選考・任命した。 ・これまで有期であった学芸員の固有職員化（12名）や、新規採用（14名）を積極的に進めることで、専門人材を確保した。 ＜博物館資料の充実＞ ・寄贈により新たな資料を積極的に受け入れるとともに、購入等による関連情報及び資料を獲得した。 ＜施設および設備の整備＞ ・市立美術館の大規模改修については業者選定を終え工事に着手するとともに、東洋陶磁美術館のエントランス改修についても実施設計を終えるなど、大規模な施設整備を着実に進めた。 ・科学館において、プラネタリウムの改修や附帯設備の改修を、自然史博物館においては講堂の改修やネイチャーホールの天井改修を実施し、利用者の利便性の向上を図るとともに、コロナ禍においても安全性の確保に寄与した。 ・歴史博物館においては、展示ケースの有機酸問題を解消する改修計画に着手し、公開承認施設復帰への目途をたてた。 ・機構の基金を活用し、各種の課題解決や大阪・関西万博へのインパクトを踏まえ、科学館の展示改装計画を策定し、改修に着手した。 ●【人材関係】 職員数推移（各年度4月1日現在）（単位：人） <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>職員数</td><td>136</td><td>148</td><td>157</td><td>145</td><td>145</td></tr><tr><td>うち学芸員数</td><td>76</td><td>77</td><td>76</td><td>76</td><td>76</td></tr></table> 科学研究費補助金獲得件数・金額 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>件数</td><td>8</td><td>10</td><td>5</td><td>3</td></tr><tr><td>金額（千円）</td><td>25,480</td><td>33,800</td><td>32,240</td><td>7,800</td></tr></table> ●【資料関係】 資料等寄贈・収集件数（単位：件） <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>寄贈件数</td><td>47,339</td><td>1,778</td><td>1,491</td><td>1,297</td></tr></table>		R1	R2	R3	R4	R5	職員数	136	148	157	145	145	うち学芸員数	76	77	76	76	76		R1	R2	R3	R4	件数	8	10	5	3	金額（千円）	25,480	33,800	32,240	7,800		R1	R2	R3	R4	寄贈件数	47,339	1,778	1,491	1,297
	R1	R2	R3	R4	R5																																								
職員数	136	148	157	145	145																																								
うち学芸員数	76	77	76	76	76																																								
	R1	R2	R3	R4																																									
件数	8	10	5	3																																									
金額（千円）	25,480	33,800	32,240	7,800																																									
	R1	R2	R3	R4																																									
寄贈件数	47,339	1,778	1,491	1,297																																									

●【施設整備関係】

年次計画に基づく計画的な施設整備、改修の実施

法人の自己評価	4
・地方独立行政法人制度のメリットである自主性・機動力を発揮し、博物館・美術館活動の基盤となる人材と資料の充実及び、今後の文化資源の蓄積を図るための施設・設備の整備を時機に囚われることなく積極的かつ着実に進めることで、設立団体である大阪市が平成29年度に法人設立に際し策定した「博物館施設の地方独立行政法人化に向けた基本プラン」で掲げられている「法人の基礎固め」に向け順調に進捗した。 ・また、博物館資料に関しては、購入による新規増は実現しないなどの課題はあったものの、学芸員の努力により寄贈・寄託により充実は図られた。	

【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価）

R1	R2	R3	R4
4	4	3	3

大阪市評価	4
【人材関係】 学芸員の固有職員化など機構運営に必要な職員の人材確保が積極的に行われ、組織運営体制が確立されたことにより安定的に運営されている。 また、科学研究費補助金についても継続的に確保されており、調査研究活動の推進と共に、歳入の確保が図られている。 【資料関係】 寄贈により新たな資料を積極的に受け入れるなど、館蔵品資料の充実により展示の魅力向上が図られている。 【施設整備関係】 市立美術館の大規模改修、東洋陶磁美術館のエントランス改修などの大規模工事について、それぞれ着実に進められている他、科学館においても大阪・関西万博の機会を活かした認知度向上、新たな来館者の獲得に向けた展示改装計画に着手するなど、計画的な整備が進められている。 これらに加え、各館においても利用者の利便性の向上とともに施設の適切な維持管理が図られている。	

2 幅広い活動及び連携を通じた博物館等の魅力の効果的な発信		実績・評価等													
博物館等の魅力を広く伝えるため、各館がさまざまな活動を展開するとともに、他の博物館等、学校、学会、調査研究機関その他の国内外の関係機関と積極的に連携する。		1. 常設展における展示替え 2. 自主企画による特別展等の充実による展示活動の活性化 3. 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと 4. 多様な媒体及び手段を通じた調査研究その他の活動の成果の公表 5. 博物館等資料の貸出し及びほかの博物館等関係機関の資料の借用 6. 各館の枠を超えた知識及び経験等の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携 7. ICT等を活用した博物館等資料に関するさまざまな情報の有効利用及び博物館等資料のアーカイブ化による公開の推進 8. 他の博物館等関係機関との相互支援及び協働を通じた相互の資源の保全及び効果的な活用 9. 各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施													
		<展示活動の充実など魅力的な事業展開> ・令和元年度のコロナ禍前には、常設展の活性化や他館と連携した特別展を通じて、過去最高の観覧者を迎えることができた。また、科学館においては、展示物に抗ウイルス剤の塗布等の対策を施し、リスクを抑えることでハンズオンを主とする館の中では全国で先駆けて再開館する等、概ね通常通りの運用を続けた。 ・講演やワークショップ等の多様な教育普及事業を展開するとともにコロナ禍においても「おうちミュージアム」や各館学芸員が出講した「TALK&THINK」などオンライン・リモートによる各種のコンテンツの公開等を通じて、魅力的な情報を発信した。 <学術的連携> ・自然史博物館及び科学館の共催による「アインシュタイン展」については、機構の強みを活かし、会場の確保や各種広報等の相互連携により実現できた。													
		●来館者数 (単位：人) <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>来館者数</td><td>2,482,641</td><td>633,185</td><td>1,110,328</td><td>1,747,792</td></tr></table>					R1	R2	R3	R4	来館者数	2,482,641	633,185	1,110,328	1,747,792
	R1	R2	R3	R4											
来館者数	2,482,641	633,185	1,110,328	1,747,792											
		●資料のデジタルアーカイブ化実績 (単位：件) <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>アーカイブ件数</td><td>2,820</td><td>1,768</td><td>4,632</td><td>5,621</td></tr></table>					R1	R2	R3	R4	アーカイブ件数	2,820	1,768	4,632	5,621
	R1	R2	R3	R4											
アーカイブ件数	2,820	1,768	4,632	5,621											
		●オンライン・リモートによる各種コンテンツの発信 ・学芸員講習会「TALK&THINK」 (R3年2月、R4年1、2月、R5年2月開催) 等 オンラインにより、全国の方にも視聴して頂く事ができた。また、アーカイブ化し、視聴回数が6万回を超える講演もあった。													
		●博物館機構外部の他館との共同研究、館蔵資料等貸出													
		●機構内での連携事業 「アインシュタイン展」(科学館、自然史博物館共催)、 「クリエイティブアイランド中之島」内での連携(中之島美術館、東洋陶磁美術館、科学館) ほか													
		●科学館独自の企画展(南部陽一郎生誕100周年企画展)を初めて他都市(愛媛、愛知、大阪(豊中))で開催													
		<table><tr><td>法人の自己評価</td><td colspan="3">4</td></tr></table>				法人の自己評価	4								
法人の自己評価	4														
		・コロナ禍以前(令和元年末まで)には過去最高の来館者を得るとともに、対面・接触が困難なコロナ禍の下にあってもオンライン・デジタル化等創意工夫を行うことによりオンライン鑑賞等を利用する層の獲得を含め、幅広い層へ博物館・美術館の魅力が効果的に伝達できた。													

【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価）

R1	R2	R3	R4
4	3	3	4

大阪市評価	4
・令和元年度（コロナ禍前）は常設展の活性化や他館と連携した特別展の開催など、過去最高の来館者を迎えることができた。 ・コロナ禍においても、感染防止対策などを取ることで全国に先駆けて再開館（科学館）するとともに、オンライン・リモートによる各種コンテンツの公開等することにより魅力的な情報を発信することができている。 ・館蔵資料等のデジタルアーカイブ化の推進とともに、博物館機構外部の館をはじめ、機構内部での連携など相互支援及び協働を通じた効果的な活用が行われている。	

3 戦略的広報の展開		実績・評価等																																																	
大阪における文化資源の蓄積及び成果の素晴らしさを国内外に向けて効果的に発信するため、時宜やニーズを捉えた戦略的な工法の展開を目指す。	1. 広報の対象及び時機並びに媒体の特徴を捉えた迅速で柔軟な情報発信	<戦略的な広報> ・「OSAKA MUSEUMS」での活動紹介や、文化庁補助金による「Osaka Museums Card」の作成・配布など、機構6館を横断した取り組みを進めた。 ・ホームページのスマホ対応化、館案内パンフレットの多言語化、ポスター・チラシ、Instagram、YouTubeなどを駆使した多角的で、迅速かつ効率的な情報発信を継続して行った。 ・共催メディア等への働きかけによる番組や記事掲載、首都圏主要駅や関西主要鉄道会社での広告掲出など、各館及び事務局で様々な手法の広報活動を展開した。 ・コロナ禍を契機として、動画配信やオンライン事業を積極的に行うことで国内外問わず、広範に渡る広報を展開できた。 ・顧客データを活用したメールマガジンの配信などの新規業務に取り組んだ。 ●各施設の認知度（R4アンケート調査 n=1,500） <table><tr><td>・大阪市立美術館</td><td>: 45.1%</td><td colspan="2">(参考)</td><td>・大阪城天守閣</td><td>: 73.1%</td></tr><tr><td>・大阪市立自然史博物館</td><td>: 36.3%</td><td></td><td></td><td>・中央公会堂</td><td>: 44.9%</td></tr><tr><td>・大阪市立東洋陶磁美術館</td><td>: 17.7%</td><td></td><td></td><td>・大阪くらしの今昔館</td><td>: 30.2%</td></tr><tr><td>・大阪市立科学館</td><td>: 54.9%</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・大阪歴史博物館</td><td>: 32.4%</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・大阪中之島美術館</td><td>: 47.7%</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> ●SNS での情報発信数 (単位: 件) <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>情報発信数</td><td>1,646</td><td>1,619</td><td>3,060</td><td>2,557</td></tr></table>				・大阪市立美術館	: 45.1%	(参考)		・大阪城天守閣	: 73.1%	・大阪市立自然史博物館	: 36.3%			・中央公会堂	: 44.9%	・大阪市立東洋陶磁美術館	: 17.7%			・大阪くらしの今昔館	: 30.2%	・大阪市立科学館	: 54.9%					・大阪歴史博物館	: 32.4%					・大阪中之島美術館	: 47.7%						R1	R2	R3	R4	情報発信数	1,646	1,619	3,060	2,557
	・大阪市立美術館					: 45.1%	(参考)		・大阪城天守閣	: 73.1%																																									
	・大阪市立自然史博物館					: 36.3%			・中央公会堂	: 44.9%																																									
	・大阪市立東洋陶磁美術館					: 17.7%			・大阪くらしの今昔館	: 30.2%																																									
	・大阪市立科学館	: 54.9%																																																	
	・大阪歴史博物館	: 32.4%																																																	
	・大阪中之島美術館	: 47.7%																																																	
		R1	R2	R3	R4																																														
	情報発信数	1,646	1,619	3,060	2,557																																														
	2. マスメディア等への積極的な情報発信																																																		
3. 各館の枠を捉えたマーケティングの実施及びその結果に基づく広報戦略の策定																																																			
4. 生涯学習に関する施設その他の博物館等に関する施設及びその事業者との連携及び協働を通じた広報活動の展開																																																			
<table><tr><td colspan="4">法人の自己評価</td><td colspan="2">3</td></tr><tr><td colspan="6">・メディアや鉄道会社等との連携等を積極的に行う従来の方法に加え、コロナ禍を契機に得たデジタル化のノウハウ等を活用し、幅広い層に向け、時機に応じた広報が展開できた。</td></tr></table>						法人の自己評価				3		・メディアや鉄道会社等との連携等を積極的に行う従来の方法に加え、コロナ禍を契機に得たデジタル化のノウハウ等を活用し、幅広い層に向け、時機に応じた広報が展開できた。																																							
法人の自己評価				3																																															
・メディアや鉄道会社等との連携等を積極的に行う従来の方法に加え、コロナ禍を契機に得たデジタル化のノウハウ等を活用し、幅広い層に向け、時機に応じた広報が展開できた。																																																			
【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価） <table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>						R1	R2	R3	R4	3	3	3	3																																						
R1	R2	R3	R4																																																
3	3	3	3																																																
<table><tr><td colspan="4">大阪市評価</td><td colspan="2">3</td></tr><tr><td colspan="6">・メディアや鉄道事業者への働きかけなど、様々な媒体、手法をもとにした広報活動が展開されている。</td></tr><tr><td colspan="6">・ホームページでの情報発信に加え、ポスターやチラシのほかSNSでの情報発信など、情報を必要とする方に向けて適時の情報発信が進められている。</td></tr></table>						大阪市評価				3		・メディアや鉄道事業者への働きかけなど、様々な媒体、手法をもとにした広報活動が展開されている。						・ホームページでの情報発信に加え、ポスターやチラシのほかSNSでの情報発信など、情報を必要とする方に向けて適時の情報発信が進められている。																																	
大阪市評価				3																																															
・メディアや鉄道事業者への働きかけなど、様々な媒体、手法をもとにした広報活動が展開されている。																																																			
・ホームページでの情報発信に加え、ポスターやチラシのほかSNSでの情報発信など、情報を必要とする方に向けて適時の情報発信が進められている。																																																			

大 項 目	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 幅広い利用者の獲得及び事業者等との連携強化を通じて「大阪を元気に」	法人は、各館が都市に立地するという特徴を活かし、国内外から幅広い利用者を獲得するとともに、各館の周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携を図ることにより、大阪の活性化及び発展に貢献する。															
中期目標	中期計画	実績・評価等															
1 ソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備																	
各館の立地優位性を活かし、幅広い利用者を獲得するため、展覧会又は展示物に係るソフトの充実及び利用者の受入れ体制の整備を図る。	1. マスメディア等と連携した特別展及び企画展の誘致 2. 様々な利用者の受入れ体制の充実 3. 多言語標記等による外国人の受入れ態勢の充実 4. 芸術文化に係る団体への成果発表の機会の提供及び当該団体の活動の奨励 5. さまざまな事業者等と連携した観光客の獲得	<ソフトの充実>・マスコミと積極的に協働し、魅力的な特別展を誘致・開催し、多くの観覧者を獲得した。（代表的な特別展：フェルメール、埋忠、あやしい絵、昆虫展、モディリアーニ展など） ・旅行事業者との連携による周遊型プログラムの開発・提供や、障がいを持つ利用者に対応する研修・イベントの開催を通じて、多様な層の利用者の獲得を図った。 ・歴史博物館では、HP上での「やさしいにほんご」の導入や、外国語対応として館案内パンフレット（7種類）の配架など様々な利用者の利用に備えた。 <利用者の受入れ体制の整備> ・科学館ではプラネタリウムの改修とあわせてトイレ（多機能トイレを含む）の全面改修、非常階段等の手摺設置、点字版・音声版の展示場ガイド作成等、ユニバーサルデザイン化を図った。 ・市立美術館ではエスカレーターの新設や多目的ホール等の設置、東洋陶磁美術館では多目的トイレや授乳室の新設など、改修計画に多様な利用者層のニーズにこたえられる施設の環境整備を盛り込んだ ●特別展開催実績 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>特別展開催件数（件）</td><td>13</td><td>8</td><td>15</td><td>11</td></tr><tr><td>特別展来館者数（人）</td><td>1,013,441</td><td>163,229</td><td>548,133</td><td>512,669</td></tr></table> （参考）・（R1）フェルメール展（市美術館） 54万1千人 昆虫展（自然史博物館） 15万6千人 ・（R2）フランスの絵画（市美術館） 6万人 ・（R3）超コレクション展（中之島美術館開館記念） 12万6千人 ・（R4）岡本太郎展（中之島美術館） 16万2千人 モディリアーニ展（中之島美術館） 14万5千人 ●・多言語表記等対応状況 ・館内案内等 市立美術館、東洋陶磁美術館（HP5か国語対応）大阪歴史博物館（HP9か国語対応） ・展示品説明 アプリ ポケット学芸員（東洋陶磁美術館、科学館） ・多言語による音声案内（自然史博物館、大阪歴史博物館） ●旅行事業者との連携によるプログラムの開発・提供 旅行会社との包括連携に基づき、マイクロツーリズムを企画・提供した。（歴史博物館）		R1	R2	R3	R4	特別展開催件数（件）	13	8	15	11	特別展来館者数（人）	1,013,441	163,229	548,133	512,669
	R1	R2	R3	R4													
特別展開催件数（件）	13	8	15	11													
特別展来館者数（人）	1,013,441	163,229	548,133	512,669													

法人の自己評価	3
・ マスメディアと共催した大規模特別展の誘致や、外部機関との連携による新規事業の展開、施設のユニバーサルデザイン化、多言語化等を通じて、幅広い来館者の獲得を実現した。 ・ 但し、大規模改修を実施していない一部の館においてはバリアフリー化が停滞する等、今後早急に社会の要請に応えるべく、施設整備を進める必要がある。	

【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価）

R1	R2	R3	R4
3	3	3	3

大阪市評価	3
・ マスメディア等との協働のもと、魅力的な特別展の誘致・開催ができた。 ・ 多言語対応としては館内案内のほか、展示品説明としてアプリや音声ガイドなどにより対応されている。 ・ 旅行事業者との協働による周遊型プログラムの開発により、多様な層の来館者の獲得が図られている。	

2 周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携		実績・評価等							
各館の周辺エリアの魅力向上のため、近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と積極的に連携する。	1. 各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等との連携による広報及び誘客 2. 各館の近隣の施設及び周辺エリアで活動するさまざまな事業者等と協働して行うイベントの企画及び実施	・中之島美術館の開館にあたっては、関係する交通事業者や飲食業者からの協力を得て、美術館内の空間への人の流れを作り出した。また、市立美術館では立地する周辺施設と協働した相互割引や協働広報を展開する等、自然史博物館では、長居公園内の事業者との広報連携等、さまざまな事業者との連携活動を行った。 ・コロナ禍の影響により、開館時間の短縮や臨時休館を余儀なくされたため、近隣事業者との連携については限界があった。							
		●主な連携実績 ・あべのハルカス美術館との半券キャンペーン実施（市立美術館） ・国立国際美術館との相互割引（東洋陶磁美術館） ・館内レストランとの相互割引（中之島美術館） ・大阪城天守閣との共通券（歴史博物館） ・公共交通機関、周辺商業施設等での広報協力実施							
		<table><tr><td>法人の自己評価</td><td>3</td></tr></table>		法人の自己評価	3				
		法人の自己評価	3						
		・あべの地区・中之島地区では周辺施設等との連携に積極的に取り組むなど、コロナ禍の影響で活動が制約される中でも、積極的に地域事業者等との連携を行い、地域の活性化に大きな貢献ができた。							
【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価） <table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>		R1	R2	R3	R4	3	3	3	3
R1	R2	R3	R4						
3	3	3	3						
		<table><tr><td>大阪市評価</td><td>3</td></tr></table> ・各館の近隣の施設及び周辺エリアの事業者との連携による広報協力に加え、割引入館券・共通入館券の発行など観覧者拡大の取組みが進められている。		大阪市評価	3				
大阪市評価	3								

3 民間企業等との協働等	実績・評価等									
地域経済及び産業の活性化のため、民間企業等との協働及び相互支援を推進する。	1. 各館の売店等における民間企業等と連携したサービスの充実									
	2. 民間企業等との協働による各館の活動に関連する商品及び技術の開発									
	3. 博物館等資料及び関連情報を活用した民間企業等の活動の支援									
	＜民間企業等との連携＞									
	・各館で民間事業者との協働による展覧会に関係したグッズを制作・販売する等、企業連携を推進した。									
	・歴史博物館では、旅行者とタイアップしたツアーを開発するとともに、そのノウハウを他館へも拡散した。									
	・歴史博物館では、事業者の業務をテーマにした特別企画展を開催し、大阪の産業と歴史との関わりを紹介した。									
	・東洋陶磁美術館は館蔵品画像のオープンデータ化による民間のグッズ開発等、民間事業者の事業を促進させた。									
	・中之島美術館では、多数の企業からの出品等の協力を得て、「大阪」をテーマにした展覧会を開催し、その関係について発信する等、相互支援を推進した。									
	●民間企業への館蔵資料・データの提供実績 (単位：件)									
<table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>資料等提供実績</td><td>317</td><td>211</td><td>244</td><td>332</td></tr></table>		R1	R2	R3	R4	資料等提供実績	317	211	244	332
	R1	R2	R3	R4						
資料等提供実績	317	211	244	332						
	<table><tr><td>法人の自己評価</td><td>3</td></tr><tr><td colspan="2">・ミュージアムショップにおけるオリジナルグッズの開発や特別展事業への民間企業の積極的な参画、新たなプログラムの提供等、関係する企業等との連携を積極的に進めることで、地域産業の活性化に貢献できた。</td></tr></table>	法人の自己評価	3	・ミュージアムショップにおけるオリジナルグッズの開発や特別展事業への民間企業の積極的な参画、新たなプログラムの提供等、関係する企業等との連携を積極的に進めることで、地域産業の活性化に貢献できた。						
法人の自己評価	3									
・ミュージアムショップにおけるオリジナルグッズの開発や特別展事業への民間企業の積極的な参画、新たなプログラムの提供等、関係する企業等との連携を積極的に進めることで、地域産業の活性化に貢献できた。										
	【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価）									
	<table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	R1	R2	R3	R4	3	3	3	3	
R1	R2	R3	R4							
3	3	3	3							
	<table><tr><td>大阪市評価</td><td>3</td></tr><tr><td colspan="2">・民間企業との協働による展覧会に関連したグッズの開発・販売のほか、民間企業の業務をテーマにした産業と歴史の関わりを説明する特別企画展の開催など、民間企業との連携が図られている。</td></tr><tr><td colspan="2">・民間企業への館蔵資料・データの提供など、民間企業への活動支援とともに資料等の有効活用も図られている。</td></tr></table>	大阪市評価	3	・民間企業との協働による展覧会に関連したグッズの開発・販売のほか、民間企業の業務をテーマにした産業と歴史の関わりを説明する特別企画展の開催など、民間企業との連携が図られている。		・民間企業への館蔵資料・データの提供など、民間企業への活動支援とともに資料等の有効活用も図られている。				
大阪市評価	3									
・民間企業との協働による展覧会に関連したグッズの開発・販売のほか、民間企業の業務をテーマにした産業と歴史の関わりを説明する特別企画展の開催など、民間企業との連携が図られている。										
・民間企業への館蔵資料・データの提供など、民間企業への活動支援とともに資料等の有効活用も図られている。										

大 項 目	第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 人々の多様な学習ニーズに応えられる「学びと活動の拠点へ」	法人は、各館を人々が探求心を抱き、感受性及び創造性を育むことができ、多様な学習ニーズに応えるものとするにより、市民力の向上に貢献する。																																
中期目標	中期計画	実績・評価等																																
1 こども及び教員等への支援																																		
こどものリテラシーの向上及び教員等のスキルの向上のため、各館の活動における支援メニューの充実に取り組む。	1. こども向けワークシートの作成及びワークショップ等の実施 2. 教員等を対象とした研究及び教材の開発に係る支援の実施	＜こどもへの支援＞ ・コロナ禍の影響下においてもリモート等ワークショップ開催継続を通じて、可能な限り教育普及活動を継続した。 ＜教員への支援＞ ・コロナ禍によって中止した2020年度を除き、教員向けの一泊研修を複数館が加わって開催した。（コロナ禍においては一部リモート開催により開催） ・各館で、下見対応、学芸員による講義の実施、小学校向けの出張サイエンスショーや小中学校の学習内容を考慮したプラネタリウム学習投影の実施、見学ワークシートをホームページに掲載する等、教員への支援に取り組んだ。 ●子供向けワークショップの開催状況 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>開催回数</td><td>105</td><td>21</td><td>40</td><td>67</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>5,505</td><td>1,328</td><td>3,051</td><td>4,924</td></tr></table> ●教職員向け研修の開催状況 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>開催回数</td><td>13</td><td>7</td><td>5</td><td>6</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>296</td><td>18</td><td>140</td><td>180</td></tr></table> ●その他の連携 ・小学校での出張授業 ・中学生向け職業体験プログラム ・「教員のための博物館の日」（コロナ禍においてはオンライン実施） など <table><tr><td>法人の自己評価</td><td>3</td></tr></table> ・ワークショップやワークシートの提供等、こども向けプログラムの提供や教員向けの研修を継続的に行うことにより、こどもと教員等のリテラシーやスキル向上に貢献した。		R1	R2	R3	R4	開催回数	105	21	40	67	参加人数	5,505	1,328	3,051	4,924		R1	R2	R3	R4	開催回数	13	7	5	6	参加人数	296	18	140	180	法人の自己評価	3
	R1	R2	R3	R4																														
開催回数	105	21	40	67																														
参加人数	5,505	1,328	3,051	4,924																														
	R1	R2	R3	R4																														
開催回数	13	7	5	6																														
参加人数	296	18	140	180																														
法人の自己評価	3																																	

【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価）

R1	R2	R3	R4
3	2	3	3

大阪市評価	3
・ 自然史博物館、科学館はもとより、それぞれの館において子どもを対象としたワークショップを企画・開催するなど、子供にも興味・関心を引くような取組みが考えられ積極的に取り組んでいた。 ・ また、コロナ禍においてはホームページにおける情報発信をはじめ、オンラインでのプログラムの実施など積極的に取り組みが行われた。	

2 幅広い利用者への支援		実績・評価等												
さまざまな人々の多様な学習ニーズに応えるため、支援メニューの充実に取り組む。	1. 学生その他の専門的な知識の習得を目指す者への支援の実施	<さまざまな人々への支援メニュー> ・大学での博物館関連の各種講義、学芸員の専門性を活かした講義、博物館実習の受け入れ、専門知識や経験を求めるインターンやアマチュアの指導などを通じて教育支援活動を担った。 ・YouTube等の動画配信を通じたオンラインでの講演・講義の提供に積極的に取り組み、時間と地域を問わず、学習プログラムを提供できた。 ●大阪市立大学（大阪公立大学に改組）との包括連携協定締結に基づく博物館関連講座への講師派遣・インターンの受入れ												
	2. 博物館等資料並びにその保管及び公衆の観覧並びにそれらの調査研究に関する教育及び普及の事業を行うこと。（再掲）													
	3. 多様な媒体及び手段を講じた調査研究その他の活動の成果の公開（再掲）													
	4. 多言語表記等による外国人の受入れ体制の充実（再掲）													
	インターン・実習等受入実績 <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>受入実績</td><td>252</td><td>184</td><td>245</td><td>270</td></tr></table>					R1	R2	R3	R4	受入実績	252	184	245	270
		R1	R2	R3	R4									
	受入実績	252	184	245	270									
	●オンライン講演 コロナ禍を契機に年間70本を超えるオンライン講演会を実施する等、事業の拡充を図った。													
	<table><tr><td>法人の自己評価</td><td>3</td></tr><tr><td colspan="2">・各館が特性を活かしたオンライン・オフラインによる多様な教育普及活動を展開することで、年齢層や地域に限定されることなく、さまざまな学習ニーズに応えることができた。</td></tr></table>				法人の自己評価	3	・各館が特性を活かしたオンライン・オフラインによる多様な教育普及活動を展開することで、年齢層や地域に限定されることなく、さまざまな学習ニーズに応えることができた。							
	法人の自己評価	3												
・各館が特性を活かしたオンライン・オフラインによる多様な教育普及活動を展開することで、年齢層や地域に限定されることなく、さまざまな学習ニーズに応えることができた。														
【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価） <table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>				R1	R2	R3	R4	3	3	3	3			
R1	R2	R3	R4											
3	3	3	3											
<table><tr><td>大阪市評価</td><td>3</td></tr><tr><td colspan="2">・大学との包括連携協定に基づく大学での各種講義の提供に加え、博物館実習、インターンやアマチュアの指導などを通じて教育支援活動を担っている。</td></tr><tr><td colspan="2">・コロナ禍にあっても、オンライン等により多様な教育・普及活動ができたと考えられる。</td></tr></table>				大阪市評価	3	・大学との包括連携協定に基づく大学での各種講義の提供に加え、博物館実習、インターンやアマチュアの指導などを通じて教育支援活動を担っている。		・コロナ禍にあっても、オンライン等により多様な教育・普及活動ができたと考えられる。						
大阪市評価	3													
・大学との包括連携協定に基づく大学での各種講義の提供に加え、博物館実習、インターンやアマチュアの指導などを通じて教育支援活動を担っている。														
・コロナ禍にあっても、オンライン等により多様な教育・普及活動ができたと考えられる。														

3 参画機会の提供		実績・評価等							
さまざまな人々の多様な学習ニーズに応えるため、支援メニューの充実に取り組む。	1. ボランティア及びNP0の各館の活動への参画の促進 2. 各館の活動に関する利用者との対話の機会及び場の設定 3. さまざまな人々が自らの学習成果を活用して行う教育活動の機会の提供及びその奨励	<参画機会の提供> ・コロナ禍前は、友の会の支援や一部展示のメニューをボランティア活動とするなど、NP0等の参画の機会を提供した。特に、科学館ではサイエンスガイド、科学デモンストレーターなどのボランティア活動を支援するとともに、大阪・関西万博に向けたボランティアの活動を推奨した。 ・コロナ禍においては、ハンズオン展示などの休止により、ボランティア活動は休止を余儀なくされたがリモートでの意見交換会や研修を実施した。 ・自然史博物館では、市民が自然の調査に参画した結果を特別展や研究に反映させるなど、博物館の活動へ参画の機会を提供した。 ・自然史博物館（少人数体制であったが、運営補助等の協力を得た。）科学館（オンライン研修9月～12月、ガイドリーダーからの情報提供、月刊誌等の送付）、大阪歴史博物館（常設・特別展見学、館主催講演会参加等の自己研修及びオンライン研修会の実施）							
		法人の自己評価2							
		・コロナ禍により活動が制約される中、リモートでの意見交換会の実施や、リニューアル後の事業活動の企画を行ったが、活動範囲が限定的となり十分に活動することができず、充実した市民活動への活動には至らなかった。							
		【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価）							
		<table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>3</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>		R1	R2	R3	R4	3	2
R1	R2	R3	R4						
3	2	3	3						
大阪市評価3									
・市民活動への支援として、コロナ禍の影響によりこれまでどおりの取り組み実施はできなかったものの、オンライン研修会など実施手法の検討により一定の取組みを行うことができていると評価できる。									

大 項 目	第2 住民に対して提供するサービスその他の 業務の質の向上に関する事項 4 大阪中之島美術館の開館に向けて	法人は、大阪市北区中之島に建設予定の大阪中之島美術館について、2021年度中の開館に必要な準備業務を行う。				
中期目標	中期計画	実績・評価等				
1 大阪中之島美術館の開館に向けて						
大阪中之島美術館の開館に必要な準備業務を行う。	1. 工事定例会や整備内容に関する協議等に積極的に参加し情報の収集を行う。 2. 学芸員の視点が整備内容に適切に反映されるよう、大阪市に助言を行う。 3. コレクション展及び企画展の開催の準備 4. 新たな博物館等資料の収集 5. 博物館等資料の公開に向けた修復及アーカイブ化 6. 開館記念企画展の準備 7. 開館に向けた機運の醸成 8. 大阪中之島美術館とともに運営するPFI事業者の選定	・ 定例の会議への参画等を通じて建設工事の予定通りの進行に貢献するとともに、大阪市が行う業務を補助した。 ・ 当館の運営を担うPFI事業者を選定し、運営権を設定した。 ・ 開館に向け、収蔵品の運搬を含めた引っ越し業務や物品の調達、アーカイブデータの整備等を予定通り進めた。 ・ 開館に向けたプレイベントやHPへの掲出、SNSでの精力的な発信を通じて、開館をPRした。 ・ 主要駅でのポスターの掲出など、都市部での広報活動にも精力的に努めた。 ・ 開館後の特別展では、目標人数を大幅に上回る来館者を迎えた。 ・ 各種の展覧会が盛況であったことや、地域の活性化への貢献が認められ、下半期には様々な分野で受賞した。 ※2022年ヒット商品ベスト30 <第29位> 主 催／日経トレンドィ、大阪活カグランプリ 2022 <グランプリ> 主 催／大阪商工会議所、第20回関西元氣文化圏賞 <大賞> 主催／関西元氣文化圏推進委員会、関西財界セミナー賞 2023 <特別賞> 主催／一般社団法人 関西経済同友会・公益社団法人 関西経済連合会 ●2022（令和4）年2月2日 中之島美術館開館 ・ 開館イベント「Hello Super Collection 超コレクション展」令和4年2月2日～3月21日（42日間） 目標 92,000人 来館者数 126,310人 <table><tr><td>法人の自己評価</td><td>4</td></tr><tr><td colspan="2"> ・ 機構役員と中之島美術館館長を含めた会議や、PFI事業者と機構の準備室・事務局とで月1回開催する部会を通じて、一体となって準備に取り組み、開館に向けた認知度の向上を実現した。 ・ また、当初予定通り開館を迎えることができ、また多くの観覧者を迎えることで大阪の地域活性化に寄与できた。 </td></tr></table>	法人の自己評価	4	・ 機構役員と中之島美術館館長を含めた会議や、PFI事業者と機構の準備室・事務局とで月1回開催する部会を通じて、一体となって準備に取り組み、開館に向けた認知度の向上を実現した。 ・ また、当初予定通り開館を迎えることができ、また多くの観覧者を迎えることで大阪の地域活性化に寄与できた。	
法人の自己評価	4					
・ 機構役員と中之島美術館館長を含めた会議や、PFI事業者と機構の準備室・事務局とで月1回開催する部会を通じて、一体となって準備に取り組み、開館に向けた認知度の向上を実現した。 ・ また、当初予定通り開館を迎えることができ、また多くの観覧者を迎えることで大阪の地域活性化に寄与できた。						

【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価）

R1	R2	R3	R4
3	3	3	—

大阪市評価	4
・オープニング前後の広報及びメディア露出により、認知度の向上が図れたと考える。 調査では中之島美術館の認知度は47.7%となっており市立科学館の54.9%には及ばないものの、市立美術館の45.1%、中央公会堂の44.9%を上回っている。 ・開館イベントについても目標人数を大幅に上回る来館者を迎えられていることに加え、地域活性化への貢献が認められることにより様々な分野での賞を受賞するなど、順調に開館できたと考えられる。	

大 項 目	第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項	法人は、業務運営の改善及び効率化を図ることで、法人の事業の持続的かつ安定的な実施を目指す。																														
中期目標	中期計画	実績・評価等																														
1 人材の活用と育成																																
限られた人材を効果的に活用するため、その確保と適正配置を図る。	1. 職員の能力が発揮できる組織体制の構築及び適切かつ柔軟な人員配置 2. 職員のスキルアップを図るための学習機会の確保 3. 包摂的な社会にふさわしい人材の獲得 4. 法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的確保及び育成	・法人設立後、民間等から事務系(14名)・技術系(2名)の職員を、課長・係長級のポストを中心に採用し、各館及び事務局に配置した。 ・事務系職域において、係員から主任級(10名)/係員級(3名)を正規職員に登用した。また、また事務系の各職階で昇任を積極的に進めた。(課長級:2名、課長代理級:1名、係長級:5名) ・職階に応じた研修を積極的に実施するとともに、事務系・学芸系を横断して通年でワーキングを行うなど、組織の活性化を図った。 ・時期に囚われずに積極的に人事異動を行い、効果的な職員配置を目指しつつ、組織の活性化を図った。 ●職員数推移(各年度4月1日現在) (単位:人) <table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td><td>R5</td></tr><tr><td>職員数</td><td>136</td><td>148</td><td>157</td><td>145</td><td>145</td></tr><tr><td>うち学芸員数</td><td>76</td><td>77</td><td>76</td><td>76</td><td>76</td></tr></table> ●研修実施状況 ・新任職員研修をはじめ、人事評価研修、管理職研修、係長級研修、個人情報保護研修、ハラスメント研修、新任学芸員研修など各種研修を実施 <table><tr><td>法人の自己評価</td><td>4</td></tr></table> ・民間等から積極的に人材を採用するとともに、内部昇任を通じたモチベーションの向上や研修を通じた能力向上を実現した。 ・今後は教育普及やDXに特化した人材等、社会の要請にこたえる専門人材のあり方を検討し採用することが必要である。 【参考】各事業年度の年次評価結果(大阪市評価) <table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>4</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td></tr></table> <table><tr><td>大阪市評価</td><td>4</td></tr></table> ・博物館機構発足以降、学芸員の固有職員化など必要な職員の人材確保が積極的に行われるとともに、時期にとらわれない人事異動など効果的な職員配置が行われ、組織の活性化が図られている。		R1	R2	R3	R4	R5	職員数	136	148	157	145	145	うち学芸員数	76	77	76	76	76	法人の自己評価	4	R1	R2	R3	R4	4	4	3	3	大阪市評価	4
	R1	R2	R3	R4	R5																											
職員数	136	148	157	145	145																											
うち学芸員数	76	77	76	76	76																											
法人の自己評価	4																															
R1	R2	R3	R4																													
4	4	3	3																													
大阪市評価	4																															

2 評価制度の活用		実績・評価等							
評価制度に基づく業務改善及び職員のモチベーションが向上するよう、適正な制度の構築及び運用を目指す。	1. 法人の中期計画及び年度計画における適正な目標設定及び自己評価 2. 能力に応じた人事評価の実施 3. 法人の適正な目標設定及び評価の基礎となる運営に関する調査研究の実施 4. インセンティブが適正に働く人事制度の導入	・ 令和3年度から、人事評価に基づき業績給を支給する「館長業績評価制度」を導入した。 ・ 人事評価制度について、課長級の職員からのヒアリングや意見交換を通じて職種に応じた制度を構築し、令和2年度より試行実施・令和3年度より本格実施した。 ・ 全職員に対する人事評価制度に係る研修を毎年実施							
		法人の自己評価	3						
		・ 館長には評価結果に基づく業績給を加算することで、モチベーションの向上や業務改善の進捗を図った。館長以外の職員へは上長との面談による目標設定や業務の振り返りを行うことで、人材育成やモチベーションの向上を図った。							
		【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価）							
		<table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	R1	R2	R3	R4	3	3	3
R1	R2	R3	R4						
3	3	3	3						
		大阪市評価	3						
		・ 人事評価制度の導入が行えたことに加え、職員個々人との面談を通じモチベーションの向上と業務改善意識の高揚が図られていることから、一定の目標は達成できていると評価できる。							

3 ICT の導入及び活用・民間活力の導入	実績・評価等									
・業務の標準化及び迅速な処理のため、ICTの導入及びその活用を図る。 ・利用者へのサービスの向上及び業務の効率化を図るため、民間活力を効果的に導入する。	1. 財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用 2. 事業効果を見極めた外部委託の推進 3. 専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用 4. 民間事業者等の外部からの意見を聴取する仕組みの導入	<業務の標準化および迅速な処理のためのICTの導入と活用> ・新たな財務会計システムや勤怠管理システムを導入し、稼働させた。 ・スケジュール管理や組織情報の共有を図るべく、グループウェアを導入するとともに、テレビ会議システムを新たに導入した。 ・令和5年度の文書管理システム・電子決裁システム導入に向けた制度設計を完了した。 <民館活力の効果的な導入> ・民間出身職員の経験やノウハウも活かし、チケットレス・キャッシュレスを推進するとともに、オンラインによる図録・グッズ等の販売を実現した。 ●各種システムの導入状況 ・財務会計システム（令和元年度） ・勤怠管理システム（令和元年度） ・グループウェア、テレビ会議システム（令和2年度） ・ECサイトの導入（令和2年度）								
		<table><tr><th>法人の自己評価</th><th>4</th></tr><tr><td colspan="2">・各種システムの稼働により、法人設立以前と比べ、リアルタイムでの経営状況の把握が可能となるとともに、業務の省力化やペーパーレス化が飛躍的に進んだ。</td></tr><tr><td colspan="2">・また、グループウェアの導入・稼働により組織内の業務の効率化が図られるとともに、EC化によるサービス向上が実現した。</td></tr><tr><td colspan="2">・令和5年度には文書管理・電子決裁システムの導入を行い、意思決定の迅速化・業務の効率化を図る予定である。</td></tr></table>	法人の自己評価	4	・各種システムの稼働により、法人設立以前と比べ、リアルタイムでの経営状況の把握が可能となるとともに、業務の省力化やペーパーレス化が飛躍的に進んだ。		・また、グループウェアの導入・稼働により組織内の業務の効率化が図られるとともに、EC化によるサービス向上が実現した。		・令和5年度には文書管理・電子決裁システムの導入を行い、意思決定の迅速化・業務の効率化を図る予定である。	
	法人の自己評価	4								
	・各種システムの稼働により、法人設立以前と比べ、リアルタイムでの経営状況の把握が可能となるとともに、業務の省力化やペーパーレス化が飛躍的に進んだ。									
	・また、グループウェアの導入・稼働により組織内の業務の効率化が図られるとともに、EC化によるサービス向上が実現した。									
・令和5年度には文書管理・電子決裁システムの導入を行い、意思決定の迅速化・業務の効率化を図る予定である。										
	【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価） <table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>3</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	R1	R2	R3	R4	3	4	3	3	
R1	R2	R3	R4							
3	4	3	3							
	<table><tr><th>大阪市評価</th><th>3</th></tr><tr><td colspan="2">・新たに財務会計システムをはじめとする各種システムを導入でき、運用がなされている。</td></tr><tr><td colspan="2">・システムの稼働により、臨機の経営状況の把握、ペーパーレス化など効果が出ている。</td></tr><tr><td colspan="2">・民間出身職員の知識を活用し、EC化により利用者の利便性が向上するなどの効果も出ており計画通りの取組みができています。</td></tr></table>	大阪市評価	3	・新たに財務会計システムをはじめとする各種システムを導入でき、運用がなされている。		・システムの稼働により、臨機の経営状況の把握、ペーパーレス化など効果が出ている。		・民間出身職員の知識を活用し、EC化により利用者の利便性が向上するなどの効果も出ており計画通りの取組みができています。		
大阪市評価	3									
・新たに財務会計システムをはじめとする各種システムを導入でき、運用がなされている。										
・システムの稼働により、臨機の経営状況の把握、ペーパーレス化など効果が出ている。										
・民間出身職員の知識を活用し、EC化により利用者の利便性が向上するなどの効果も出ており計画通りの取組みができています。										

大 項 目	第 4 財務内容の改善に関する事項	法人は、財務内容の改善を図り、持続可能な事業の実施に必要な資金を確保することで、安定的な経営を目指す。																
中期目標	中期計画	実績・評価等																
1 収入の確保																		
持続可能な事業の実施に必要な資金を安定的に確保するため、各館の収入の増加に努めるとともに外部からの資金獲得に努める。	1. 幅広い利用者の獲得及び法人資産の有効活用による収入の増加 2. 各館の活動への理解と支援に基づく寄附金等の積極的な獲得	・ 4年間で、科学研究費(99,3200,000円)、文化庁による補助金等(53,586,000円)の外部資金を獲得した。 ※科研費は研究代表者の交付決定額 ※補助金は実行委員会での補助金を含む																
		・ 一部の特別展で、新たに「こども料金」を導入し、増収を図った。																
		・ コロナ禍の下では、機構独自の中長期戦略(CRS)を立て、EC化等による収入を確保した。																
		・ 国税庁より所得税免除申請簡素化の機関認定を受けるとともに、クレジットカード(HP経由)による決済システムを整備するなど、寄附の収受にかかる環境整備を進めた。																
		・ 法人寄附を獲得するためのスキームを構築するとともに、一部の館では法人賛助会員を獲得した。																
		・ コロナ禍においても、特にプラネタリウムを中心として、安全・安心を前提とした適正な収容人数を設定し、利益の確保を実現した。																
		●展覧会等収入の状況																
		<table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>金額(千円)</td><td>581,919</td><td>205,419</td><td>331,674</td><td>327,251</td></tr></table>					R1	R2	R3	R4	金額(千円)	581,919	205,419	331,674	327,251			
			R1	R2	R3	R4												
		金額(千円)	581,919	205,419	331,674	327,251												
●科学研究費補助金獲得件数・金額																		
<table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>件数</td><td>8</td><td>10</td><td>5</td><td>3</td></tr><tr><td>金額(千円)</td><td>25,480</td><td>33,800</td><td>32,240</td><td>7,800</td></tr></table>					R1	R2	R3	R4	件数	8	10	5	3	金額(千円)	25,480	33,800	32,240	7,800
	R1	R2	R3	R4														
件数	8	10	5	3														
金額(千円)	25,480	33,800	32,240	7,800														
●ECサイトの導入(令和2年度)																		
●寄付金収入状況																		
<table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>金額(千円)</td><td>11,514</td><td>1,500</td><td>55,298</td><td>3,813</td></tr></table>					R1	R2	R3	R4	金額(千円)	11,514	1,500	55,298	3,813					
	R1	R2	R3	R4														
金額(千円)	11,514	1,500	55,298	3,813														
●収支状況の推移(単位:千円)																		
<table><tr><td></td><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>当期収支</td><td>170,641</td><td>▲10,522</td><td>▲1,729</td><td>0</td></tr></table>					R1	R2	R3	R4	当期収支	170,641	▲10,522	▲1,729	0					
	R1	R2	R3	R4														
当期収支	170,641	▲10,522	▲1,729	0														

		<table><tr><td>法人の自己評価</td><td>4</td></tr><tr><td colspan="2"> ・初年度については収入の増加等により約158百万円の剰余金を確保することができた。 ・また、コロナ禍で入館料収入が落ち込む中でも、職員の創意工夫による外部資金等の積極的獲得により大幅な赤字を回避することができた。 ・今後はアフターコロナや万博開催時を見据え、更なる来館者の確保に努める必要がある。 </td></tr></table>	法人の自己評価	4	・初年度については収入の増加等により約158百万円の剰余金を確保することができた。 ・また、コロナ禍で入館料収入が落ち込む中でも、職員の創意工夫による外部資金等の積極的獲得により大幅な赤字を回避することができた。 ・今後はアフターコロナや万博開催時を見据え、更なる来館者の確保に努める必要がある。					
法人の自己評価	4									
・初年度については収入の増加等により約158百万円の剰余金を確保することができた。 ・また、コロナ禍で入館料収入が落ち込む中でも、職員の創意工夫による外部資金等の積極的獲得により大幅な赤字を回避することができた。 ・今後はアフターコロナや万博開催時を見据え、更なる来館者の確保に努める必要がある。										
		【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価） <table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>3</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	R1	R2	R3	R4	3	4	3	3
R1	R2	R3	R4							
3	4	3	3							
		<table><tr><td>大阪市評価</td><td>3</td></tr><tr><td colspan="2"> ・令和元年度は、最終月の3月が新型コロナの影響により休館を余儀なくされたものの、非常に好調な来館者数であったことから、展覧会収入としては当初予算とほぼ想定通りの収入を確保することができている。 ・その後はコロナ禍の影響による休館や出控え等の影響により入館者が伸び悩み、収入としても低迷したが、そのような中でも中長期戦略の策定とともに、寄附金のオンライン収受システムの構築、EC化による収入確保など収益確保の多角化にも取り組まれており、収支差額を最小限に抑えたと評価できる。 </td></tr></table>	大阪市評価	3	・令和元年度は、最終月の3月が新型コロナの影響により休館を余儀なくされたものの、非常に好調な来館者数であったことから、展覧会収入としては当初予算とほぼ想定通りの収入を確保することができている。 ・その後はコロナ禍の影響による休館や出控え等の影響により入館者が伸び悩み、収入としても低迷したが、そのような中でも中長期戦略の策定とともに、寄附金のオンライン収受システムの構築、EC化による収入確保など収益確保の多角化にも取り組まれており、収支差額を最小限に抑えたと評価できる。					
大阪市評価	3									
・令和元年度は、最終月の3月が新型コロナの影響により休館を余儀なくされたものの、非常に好調な来館者数であったことから、展覧会収入としては当初予算とほぼ想定通りの収入を確保することができている。 ・その後はコロナ禍の影響による休館や出控え等の影響により入館者が伸び悩み、収入としても低迷したが、そのような中でも中長期戦略の策定とともに、寄附金のオンライン収受システムの構築、EC化による収入確保など収益確保の多角化にも取り組まれており、収支差額を最小限に抑えたと評価できる。										

2 経費の縮減		実績・評価等				
安定的な経営を実現するため、経費の縮減に努める。	1. 契約の方法、期間及び単価の見直しによる経費の縮減 2. 共同調達による経費の縮減	・主にTV会議システムやリモート用PCを活用することにより、職員の移動時間・交通費を節減するとともに、会議資料のペーパーレス化を図った。 ・長期契約・競争入札の徹底や、事務局での一括調達により経費縮減を図った。 ・省エネ診断を受診し、LED化等を進めた				
		●収支状況の推移 (単位：千円)				
			R1	R2	R3	R4
		当期収支	170,641	▲10,522	▲1,729	0
		法人の自己評価		3		
		・各種ICT化の促進や競争入札の徹底等により、経費縮減を図り、コロナ禍における収入不足に対して経費縮減を図った。				
		【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価）				
		R1	R2	R3	R4	
4	3	3	3			
大阪市評価		3				
・令和2年度以降、コロナ対策経費が増大するとともに、令和4年度においてはウクライナ情勢等による光熱費の高騰などにより、全体として経費の節減を行うことは難しい状況でありながらも、節減努力を最大限行うとともに、収入の確保などにより収支差額を最小限に抑えたと評価できる。						

大 項 目	第5 その他業務運営に関する重要事項 1 内部統制の強化	法人は、業務を恒常的に維持し発展させることのできる組織を確立するため、リスクを回避できる仕組みを構築し、機能させることで内部統制の強化に努める。									
中期目標	中期計画	実績・評価等									
1 環境整備											
内部統制の確立のため、必要な規程の策定等を行うとともに、その理解を深めるための環境を整備する。	1. 法人として内部統制に必要な規程及び体制の確保並びに法人内での周知徹底	・業務方法書に基づき、就業、契約、会計、情報管理、倫理など法人運営に必要な諸規定（107本）を整備するとともに、機構の役職員が議論し、経営理念を策定した。 ・理事会と経営会議の役割を明確化し、両者の責任と権限を明文化した。また、経営会議のもとに総務課長会・学芸課長会を設置し、機構内の情報の共有化を図った。 ・各館長へ必要な権限の移譲を行い、専決権限を明文化した。 ・内部統制に必要な組織を立ち上げるとともに、監事・監査法人による監査や内部監査室による業務監査・会計監査を行った。 ・内部統制にかかる管理職研修や、経営理念の浸透を図るため係長級研修を職域を越えて実施した。 ・コロナ禍に対応するための「機構ガイドライン」を策定し、全館共通の対応を行った。 ・大阪市出資団体監査に対して、適切に対応を行い、指摘事項に対しても迅速に対応を図った。									
	2. 研究者及び学芸員として必要な規程及び体制の整備並びに法人内での周知徹底										
	3. 各職階及び各職域に応じた必要な権限の付与及び責任の明確化										
	4. 法人の各機関への適切な権限の配分及び各機関における適切な意思形成の確保										
5. 情報共有に必要なイントラネットをはじめとするICTの活用の促進											
6. 内部監査等による定期的な内部点検及び監事による監査の確実な実施											
		<table><tr><td>法人の自己評価</td><td>3</td></tr></table> ・会議体や諸規定の整備、各種の研修、監査対応を通じて内部統制環境の整備を図った。 ・また、コロナ禍においては全館共通の対応とすることで、一体経営に向けた意識醸成を図った。		法人の自己評価	3						
法人の自己評価	3										
		【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価） <table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>		R1	R2	R3	R4	3	3	3	3
R1	R2	R3	R4								
3	3	3	3								
		<table><tr><td>大阪市評価</td><td>3</td></tr></table> ・諸規程の整備と共に、組織として目指す姿を示した「経営理念」が策定された。 ・組織体制の整備に加え、職員への研修等を通じて内部統制を確立していくための取組みが進められている。		大阪市評価	3						
大阪市評価	3										

2 重要なリスク回避のための体制の構築	実績・評価等																		
重要なリスクを回避するため、早期の発見及び対処が可能な体制を構築する。	1. リスク管理体制の整備及び組織全体で取り組むべき重要なリスクの評価 2. ネットワークセキュリティの強化 ・ 通報窓口を内部及び外部に設置し、未然のリスクの回避のための環境整備を行った。 ・ リスク管理委員会を組織・設置し、重要事案が発生した場合の対応案の策定や、課題の整理を行うなど、リスクの洗い出しを行った。 ・ 新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、リスク管理担当理事をトップとした「対策本部会議」を設置し、国等の決定に対して迅速な対応を行った。 ・ メール誤配信などによる情報漏洩の事案が複数発生したが、即時に対応の研修を図り、再発防止に務めた。 ● リスク管理に係る体制の整備 令和元年度にリスク管理委員会を立ち上げ、各館及び事務局において24項目のリスクについてそれぞれリスクの洗い出し及び評価を実施。 ● 「新型コロナウイルス感染症対策会議」随時開催 令和元年度：3回 令和2年度：9回 令和3年度：17回 令和4年度：6回 <table><tr><td>法人の自己評価</td><td>3</td></tr><tr><td colspan="2">・ 通報窓口の設置や各種規定整備を行うことで機構内外のリスク低減を図るとともに、新型コロナウイルス対策など未曾有の事象にも迅速に対応するなど、来館者や職員の安全・安心を確保した館運営を実現した。</td></tr></table> 【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価） <table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table> <table><tr><td>大阪市評価</td><td>3</td></tr><tr><td colspan="2">・ リスクに対応する担当窓口の設置とともに、事案が発生した場合の対応策の策定、課題の整理を行うなど事前の対応が取られている。</td></tr><tr><td colspan="2">・ 新型コロナウイルス感染症対策会議の設置などにより、国等の決定に対して迅速な対応が取られている。</td></tr></table>	法人の自己評価	3	・ 通報窓口の設置や各種規定整備を行うことで機構内外のリスク低減を図るとともに、新型コロナウイルス対策など未曾有の事象にも迅速に対応するなど、来館者や職員の安全・安心を確保した館運営を実現した。		R1	R2	R3	R4	2	3	3	3	大阪市評価	3	・ リスクに対応する担当窓口の設置とともに、事案が発生した場合の対応策の策定、課題の整理を行うなど事前の対応が取られている。		・ 新型コロナウイルス感染症対策会議の設置などにより、国等の決定に対して迅速な対応が取られている。	
法人の自己評価	3																		
・ 通報窓口の設置や各種規定整備を行うことで機構内外のリスク低減を図るとともに、新型コロナウイルス対策など未曾有の事象にも迅速に対応するなど、来館者や職員の安全・安心を確保した館運営を実現した。																			
R1	R2	R3	R4																
2	3	3	3																
大阪市評価	3																		
・ リスクに対応する担当窓口の設置とともに、事案が発生した場合の対応策の策定、課題の整理を行うなど事前の対応が取られている。																			
・ 新型コロナウイルス感染症対策会議の設置などにより、国等の決定に対して迅速な対応が取られている。																			

大 項 目	第5 その他業務運営に関する重要事項 2 利用者等の安全確保	さまざまな人々が快適に利用できるようにするため各館の施設における安全を確保する。											
中期目標	中期計画	実績・評価等											
1 利用者等の安全確保													
さまざまな人々が快適に利用できるようにするため各館の施設における安全を確保する。	1. 利用者及び職員等の安全確保に必要な体制の整備及び各館で業務に従事する関係者への安全意識の周知徹底 2. 博物館等の施設として必要な機能及び快適な利用環境の確保に向けた各館の施設の計画的な整備及び改修（再掲） 3. バリアフリー及びユニバーサルデザインに配慮した各館の施設の計画的な整備及び改修（再掲）	・ 大阪市からの施設整備費補助金を活用してトイレの美装化やエレベーター点検等、館内設備改修を実施した。 ・ 文化庁補助金を受けての新型コロナウイルス感染症の予防策として抗菌・抗ウイルス処理などを実施し、特に接触を伴う展示において安全確保に努めた。 ・ 市立美術館及び東洋陶磁美術館においては大規模改修時に施設にユニバーサルデザイン化に向けた実施設計を立案し、工事に着手した。 ・ 科学館のプラネタリウム改修や、自然史博物館の講堂改修では、ソーシャルディスタンスの確保を可能とする座席配置を行った。また、科学館では、同時にトイレ等の館内設備を改修した。											
		<table><tr><td>法人の自己評価</td><td colspan="3">3</td></tr><tr><td colspan="4">・ 各種の工事に伴い、館内施設の改修を行うとともに、コロナ禍における利用者・職員の安全確保に努めたことにより、重大な事故やトラブルには至らなかった。 ・ 今後は、施設改修が未実施の館においてもバリアフリー化を進める等、社会の要請に応えるべく、施設のユニバーサルデザイン化を進める必要がある。</td></tr></table>				法人の自己評価	3			・ 各種の工事に伴い、館内施設の改修を行うとともに、コロナ禍における利用者・職員の安全確保に努めたことにより、重大な事故やトラブルには至らなかった。 ・ 今後は、施設改修が未実施の館においてもバリアフリー化を進める等、社会の要請に応えるべく、施設のユニバーサルデザイン化を進める必要がある。			
		法人の自己評価	3										
		・ 各種の工事に伴い、館内施設の改修を行うとともに、コロナ禍における利用者・職員の安全確保に努めたことにより、重大な事故やトラブルには至らなかった。 ・ 今後は、施設改修が未実施の館においてもバリアフリー化を進める等、社会の要請に応えるべく、施設のユニバーサルデザイン化を進める必要がある。											
【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価）													
<table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>				R1	R2	R3	R4	3	3	3	3		
R1	R2	R3	R4										
3	3	3	3										
		<table><tr><td>大阪市評価</td><td colspan="3">3</td></tr><tr><td colspan="4">・ 新型コロナ感染症対策として各館における対策が適切に実施された。 ・ 施設整備としては中長期施設整備計画に基づき、優先順位をつけ着実な整備が図られている。 ・ 施設においても重大な事故なども発生しておらず、適切に管理がなされていると考えられる。</td></tr></table>			大阪市評価	3			・ 新型コロナ感染症対策として各館における対策が適切に実施された。 ・ 施設整備としては中長期施設整備計画に基づき、優先順位をつけ着実な整備が図られている。 ・ 施設においても重大な事故なども発生しておらず、適切に管理がなされていると考えられる。				
大阪市評価	3												
・ 新型コロナ感染症対策として各館における対策が適切に実施された。 ・ 施設整備としては中長期施設整備計画に基づき、優先順位をつけ着実な整備が図られている。 ・ 施設においても重大な事故なども発生しておらず、適切に管理がなされていると考えられる。													

大 項 目	第5 その他業務運営に関する重要事項 3 環境保全の取組み	環境への負荷を低減するとともに、社会の要請に応えるため、環境に配慮した取り組みを進める。			
中期目標	中期計画	実績・評価等			
1 環境保全の取組み					
環境への負荷を低減するとともに、社会の要請にこたえるため、環境に配慮した取り組みを進める。	1. 省エネ機器の使用の推奨及び適正な空調温度の設定 2. 再生紙その他の資源の有効利用の促進 3. 環境に配慮した取組みの指標化及びその公開 4. 新たな省エネルギーの実現に向けた取組みの推進	・省エネ診断の実施を受診し、結果に基づく改修を行った。 ・テレビ会議をはじめとしたICT化を導入し職員等の移動を縮減することで環境への負荷軽減にも寄与した。 ・適正な室内温度設定、ゴミの分別処理、両面コピーの励行等に取り組んだ。 ・「3Rの取組み」や「環境に配慮した取組み」を制定し、HPに掲載した。			
		法人の自己評価		2	
		・「3Rの取組み」の制定や「環境に配慮した取組みの指標化」などは行ったものの、その達成度の公開や職員の意識の醸成など、SDGsをはじめとした社会の要請に応えるレベルには至っていない。			
		【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価）			
		R1	R2	R3	R4
		3	3	3	3
		大阪市評価		3	
		・「環境に配慮した取組みの指標化」は行われたものの、その達成度の公開などについては実施されていないことから、早急に改善すべきであるが、環境に配慮した取り組みはそれぞれ行われており、計画通りの取組みが行われていると評価できる。			

大 項 目	第5 その他業務運営に関する重要事項 4 情報公開の推進	運営状況の透明性を確保し、広く法人の活動への理解及び信頼を得るため、情報公開を推進する。								
中期目標	中期計画	実績・評価等								
1 情報公開の推進										
運営状況の透明性を確保し、広く法人の活動への理解及び信頼を得るため、情報公開を推進する。	1. ホームページ等を通じた情報の積極的な公開 2. 情報公開請求に対する迅速な対応	・各館及び事務局HPにおいて展覧会やイベント、入札・採用情報を適宜掲載するとともに、法人諸規定や議事録、中期計画・年度計画、年報などの法人情報を積極的に発信した。 ・市民への説明責任を果たすため、コロナ罹患者が発生した際には速やかに機構及び各館HPに掲載した。 ・各館及び事務局において、各種SNSにより、時機に応じた展覧会情報の発信に努めた。 ・条例に基づいた情報公開請求に対しては、積極的に公開した。								
		●博物館機構ホームページの作成・公開 (博物館機構の運営状況、諸規程、情報公開請求に対する回答内容など)								
		情報公開請件数 令和元年度：0件 令和2年度：0件 令和3年度：2件 令和4年度：0件								
		<table><tr><td>法人の自己評価</td><td>3</td></tr></table>	法人の自己評価	3						
		法人の自己評価	3							
<table><tr><td colspan="2">・可能な限り、調達や採用に至る情報を公開するとともに、積極的に展覧会をはじめとする博物館・美術館活動にかかる情報を発信した。 ・また、市民の声や情報公開請求にも迅速かつ適切に対応することで、説明責任を果たした</td></tr></table>	・可能な限り、調達や採用に至る情報を公開するとともに、積極的に展覧会をはじめとする博物館・美術館活動にかかる情報を発信した。 ・また、市民の声や情報公開請求にも迅速かつ適切に対応することで、説明責任を果たした									
・可能な限り、調達や採用に至る情報を公開するとともに、積極的に展覧会をはじめとする博物館・美術館活動にかかる情報を発信した。 ・また、市民の声や情報公開請求にも迅速かつ適切に対応することで、説明責任を果たした										
		【参考】各事業年度の年次評価結果（大阪市評価） <table><tr><td>R1</td><td>R2</td><td>R3</td><td>R4</td></tr><tr><td>3</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr></table>	R1	R2	R3	R4	3	3	3	3
R1	R2	R3	R4							
3	3	3	3							
		<table><tr><td>大阪市評価</td><td>3</td></tr></table> <table><tr><td colspan="2">・ホームページを通じた機構の運営状況の開示と共に、情報公開についても規定に基づき適切に対応できていたと考える。</td></tr></table>	大阪市評価	3	・ホームページを通じた機構の運営状況の開示と共に、情報公開についても規定に基づき適切に対応できていたと考える。					
大阪市評価	3									
・ホームページを通じた機構の運営状況の開示と共に、情報公開についても規定に基づき適切に対応できていたと考える。										